

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2022.5.19 発行

vol.129



特集

鈴木康裕新学長 就任のごあいさつ

令和3年度 学部・大学院 学位記授与式

令和4年度 学部・大学院 入学式

大友邦前学長 退任特別講義・記念講演/新任のごあいさつ



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

新学長 就任のごあいさつ

多様性の時代に求められる
医療福祉のリーダーを育てる。

国際医療福祉大学 学長 鈴木 康裕



本学は2022年4月1日付けで、新学長として鈴木康裕（すずき・やすひろ）前副学長を迎えて、新たな体制のもと医療人材育成の教育を進めることになった。鈴木新学長は、厚労省時代には、高齢者福祉体制の構築に注力されたほか、チーム医療の推進にも積極的に携わって来られた。また、初代医務技監に就任され、新型コロナウイルス感染症対策にも尽力された。国連の専門機関である世界保健機関（WHO）で局長を務められた経験もあり、世界の医療事情にも通じる。2021年3月より本学副学長を務め、4月より学長としてこれまでの幅広い経験を生かし、本学の運営に精力的に携わっている。

充実した学修環境で学ぶ「多様性」

2021年1月に本学に入職し、同年3月の副学長就任から1年を経て、2022年4月より大友邦前学長の後を受け学長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

副学長として、1年間執務するなかで、国際医療福祉大学の特長について身を以って学ばせていただきました。初代学長の大谷藤郎先生が提唱され、開学から脈々と受け継がれてきた「病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる『共に生きる社会』の実現」という本学の建学の精神に示されている「共生」、日本初の医療福祉の総合大学である本学が実践してきた「チーム医療・チームケア」、そして日本のみならず世界を視野に据えた「国際性」——これら3つの特長に共通するものは、やはり「多様性」なのではないかと思います。

明日の医療福祉分野のリーダーに

これからやってくる変化の時代に適応するためにも、この「多様性」は大変重要です。病気や障害のある人、健常な人、さまざまな職種、そして文化的に異なる背景を持っている外國の方々が共に生きていく社会では、多様性を受容しながら、新しい環境や変化に適応できる柔軟で豊かな人間性を持つことが求められます。

複数の医療福祉の専門職が協働して、チームとして仕事を行う局面が多い医療福祉の仕事もまた、「多様性」が求められる仕事です。本学では、学科を横断したチームを編成して

学ぶ独自の関連職種連携教育を実践したり、6つの附属病院やグループ施設で行われる実習を早期から体験することを通じ、多職種連携の現場に触れたりと、あらゆる場面で「多様性」のなかに身を投じ、それがどのようなことであるかを学ぶことができます。こうした極めて恵まれた学修環境でこそ、明日の医療福祉を支えるリーダーが育っていくのではないかと思います。

大学は、国家試験に合格するために必要な知識を学ぶ場であると同時に、さまざまな学問や人々との出会いを通じて教養を身に付ける場でもあります。育った環境や考え方方が自分と異なる人たちの話を積極的に聞き、そこに大学で得たサイエンスとしての知識をどう適応させていくのか。そうした経験を繰り返しながら、学問を深め、本物の医療プロフェッショナリズムを身に付けていくことができるのが本学で学ぶことの意義なのではないでしょうか。

臨床重視の安全な教育支援を進める

前出の通り、本学は6つの附属病院をはじめ、グループ関連医療福祉施設や海外の提携機関を多数持つなど、他に類を見ない恵まれた実習環境を整備しています。こうした学修環境を十分に生かし、本学ではコロナ禍においても感染症対策を徹底することで、実習を続けてまいりました。学生はもとより、受け入れ側の附属病院、グループ施設にも不安のないよう、実習前の学生を対象に自己負担なしでPCR検査を実施。臨床を重視しながら、安全を第一とした教育を心掛けてまい

りました。また、授業についても感染症対策に万全を期したうえで、極力オンラインではなく対面授業を実施し、大学本来の役割を果たすべく、学生が主体的に学べる環境を整えてまいりました。

今後も引き続き、臨床に即した教育に注力しながら、研究分野においても本学のプレゼンスを発揮し、本学に通う学生や職員はもとより、地域や企業にとってこれまで以上に魅力的な大学となるよう努力してまいります。

充実した職業人生に向けて

医療福祉の仕事は、将来もAIやビッグデータの使用によって簡単に取って代わられる種類の仕事ではありません。なぜ

ならこの仕事は、高度な知識とともに豊かな人間性が備わった医療人であるからこそ携われるものだからです。新技術に対応するための知識を得る努力はもちろん必要ですが、最新の技術や機器を駆使しながら、新たな医療に携われるという点では発展性のある面白い仕事です。

学生のみなさんには、国家試験に合格するための知識を得ること以上に、その先に続く医療福祉の専門職としての職業人生をより充実したものにするために、豊かな人間性を身につける努力をしてほしいと願っています。

本学で学ぶみなさんが、将来、医療福祉のプロフェッショナルとして国内外で幅広く活躍されるよう、学長として支援してまいりたいと考えております。

プロフィール

1959年神奈川県生まれ。慶應義塾大学医学部医学科卒業。医学博士。米ハーバード大学大学院公衆衛生研究科で、Master of Public Health、Master of Scienceの2つの修士号を取得。世界保健機関（WHO）局長、厚生労働省医務技監を歴任。2021年1月より国際医療福祉大学大学院教授を務め、同年3月より副学長に就任。2022年4月より現職。



30代でWHO局長に

1998年、当時のWHO事務局長だった中嶋宏氏退任に伴い、ノルウェーの元首相グロ・ハーレム・ブルントラント氏が事務局長に就任。WHOの新体制構築のために、ブルントラント氏が日本政府にアジア代表の人材を要請する。鈴木学長は「その半年前に行われた（すでに事務局長就任が決まっていた）ブルントラント氏主催でWHO新体制のプラットフォームを作る会議に参加していたからでしょうか」と謙遜するが、実際は一本釣りのような形で名指しされ局長就任に至る。

これまでの経験を
学生のみなさんに役立てたい

当時の局長仲間には現在ノルウェーの首相を務めるヨナスガール・ストーレ氏も。ストーレ氏と鈴木氏、30代での2人の局長就任はWHO本部のあるジュネーブの町で大きな話題となった。現在のテドロス・アダノムWHO事務局長とも親しく、SNSでやり取りする仲。

「将来また、テドロスさんが訪日される機会があれば、本学で講演してもらうとか、本学の学生のみなさんがWHOのプロジェクトを見学に行くとか、さまざまな

形で役に立てることがあるかな、と思っています」と夢を口にする。

また、本学の研究開発の強化に関しても、「当然のことですが、医療が利益、経営だけのためになく、人類や患者様のためになる、という方向性が大事だと思います」と強調し、厚労省の臨床研究中核病院への認定をめざすことなども、本学の将来の課題として挙げている。



●昨年7月、テドロスWHO事務局長が三田病院に来訪された際、
歓迎する鈴木新学長（左）

Entrance Ceremony

式辞

学校法人 国際医療福祉大学
高木 邦格 理事長



4月4日 大田原キャンパス入学式より (国際医療福祉大学 那須アスリーナにて開催)

新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます。本日、国際医療福祉大学大田原キャンパスには、学部生886人、大学院生39人のあわせて925人がご入学されました。大田原、成田、東京赤坂、小田原、九州の5キャンパスを合計いたしますと、2,524人のみなさまに入学していただいたことになります。数ある大学からこの国際医療福祉大学を選んでいただきありがとうございます。

また本日は、足利銀行の清水和幸頭取、那須塩原市の渡辺美知太郎市長、また栃木県の保健福祉部から福田研一さま、大田原市次期市長の相馬憲一さまはじめ、多くのご来賓のみなさまにご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

本日は新入生のみなさまに国際医療福祉大学の歴史を少し話したいと思います。本学は1995年に日本初の医療福祉の総合大学として、この大田原に開学して、今年で27年目となります。まもなく迎える30周年は、みなさまと一緒にお祝いできるのではないかと思っております。

本学は、メディカルスタッフと呼ばれる医療福祉専門職の地位向上を1つの大きな目的として開学いたしました。開学当時、日本では今以上に医師の力の強い時代でしたが、アメリカではすでに大学や大学院で学んだ人々がメディカルスタッフとして活躍し、医師と協力してチームで患者様に向かっていました。当時、日本も保健医療福祉の総合大学を作る気運が高まっていたものの、なかなか実現に至らない現状がありました。そうした現状のもと、私は栃木県や大田原市、各職能団体などと協議を重ねながら、日本の医療福祉分野を牽引するリーダーを養成するため、この大学を開設するに至りました。大学設立準備委員会には、世界保健機関の中嶋宏氏や日本医師会会长の羽田春兔氏はじめ、日本作業療法士協会や日本放射線技師会などの職能団体のトップなど名だたるメンバーにご参加いただきました。医療福祉分野をめざす学生にとっては充実した環境が整うまさに夢の大学で、初年度から多くの受験生が入学試験を受けに訪れました。こうした本学の成功を見て、各県に同種の大学が多数でき、日本中の医療福祉教育が現在のように大学や大学院へと移行してきました。

開学時の初代学科長の半数以上は、フルブライト奨学生としてアメリカで学んだ帰国組でした。初代言語聴覚学科長の故・笹沼澄子先生や、初代看護学科長の荒井蝶子先生は、アメリカの大学や大学院での知見を生かし、帰国後、ご自身の専門分野のリーダーとして活躍していました。戦後、日本がまだ貧しかった時代に、アメリカはフルカラシップで日本から留学生を受け入れていたわけですが、翻って日本の役割は、アジアの国々で医療福祉のリーダーを養成して各国に帰し、アジアの医療システムを改善することなのではない

かと考えるに至りました。そこで本学では、アジアから優秀な留学生をフルカラシップで受け入れています。これまでに外国人留学生に給付した奨学金は数十億円にのぼっています。

「国際性」以外にも、圧倒的な教員の質の高さや極めて恵まれた実習環境も本学の大きな特長であり、これらの特長は本学の国家試験の合格率や就職率の高さにつながっています。これから本学の充実した環境で学ぶみなさまには、本学のように6つの附属病院をはじめ、大学の敷地内や近隣にグループの老人保健施設や特別養護老人ホームをはじめとする実習環境がこれほど整う医療福祉の大学は他にはないということを忘れず、学修に励んでいただければと思います。また、実習前や大きなイベント前に学生全員を対象にPCR検査を徹底し、コロナ禍においても万全の感染症対策のもと、オンラインではなく対面授業を行ってきた大学も他に類を見ないのでしょうか。

本学の卒業生は現在、大学院を含め3万人を超え、全国の病院や施設で活躍しています。将来医療福祉分野で仕事をしていくこうとするみなさまにとって、多くの先輩方が各分野の中堅やトップとして働いているということは大変心強いことでしょう。

少子高齢化が進む社会にあって、みなさまには、厳しい時代が待ち受けているかもしれません、どんな時代にあっても社会や人の役に立つことを一生懸命やることで必ず道は開けるものだと思います。国家試験に合格することや大学院で修士号や博士号を取ることはもちろん重要ですが、これから時代を生き抜いていくには豊かな教養と人に対する思いやりを身につけることが大切です。そのために、自分の専門分野ではないことにも興味を持って積極的に勉強していただきたいと思います。

最後になりましたが、学生生活を送るにあたってお願ひしたいのは、少しでも体調が悪い場合は登校せずにすぐに大学へ連絡して、PCR検査を受け、陰性を確認してから復帰してほしいということです。医療人をめざすみなさまには、最低限の身だしなみとして健康に十分留意していただきたいと思います。

みなさまが、この大田原の素晴らしい環境のなかで、のびのびとした学生生活をお過ごしになり、卒業後は国内外で活躍できるような立派な医療人となることをお祈りして、私の挨拶とさせていただきます。



大田原キャンパス

大田原キャンパスの入学式は4月4日に那須アスリーナで行われた。学部新入生886人、大学院新入生39人が入学した。鈴木康裕学長、三浦総一郎大学院長、高木邦格理事長の式辞が行われ、鈴木学長は「同級生や先生方、刺激に富んだ学問と環境に出会い、職業人としての第一歩を踏み出すことになる。私たち教職員は皆さんを全力で支え、ともに成長していきたい」と述べた。

これを受け、学部新入生を代表して理学療法学科の相馬百花さんと大学院新入生代表の博士課程・理学療法学分野、小笠原悠人さんが誓いのことばを述べた。

今年度は新型コロナ感染症対策のため、新入生に事前にPCR検査を実施したうえでの開催となった。

(総務広報部 村雲克典)



●新入生の誓いのことば

成田キャンパス

成田キャンパスの入学式が4月3日、国際医療福祉大学成田病院の成田国際ホールで行われ、医学部、成田看護学部、成田保健医療学部、臨床工学特別専攻科、大学院の新入生計599人が入学した。

式典では、鈴木康裕学長、三浦総一郎大学院長、高木邦格理事長の式辞と、来賓の小泉一成成田市長の祝辞に続き、成田保健医療学部放射線・情報科学科の青木みうさんが「他者をおもんぱかる医療人をめざしたい」と抱負を語った。

また留学生代表として、医学部医学科のキラトーン・タクサンファンさん(ラオス)とスヌ・ソウ・サンさん(ミャンマー)の2人がそれぞれ「素晴らしい医療人になりたい」「一歩ずつ成長したい」と述べ、最後に、大学院医学研究科博士課程医学専攻の吉田修土さんが決意を語った。

(総合教育センター 山本秀也)



●留学生代表の誓いのことば

東京赤坂キャンパス

東京赤坂キャンパスでは4月2日に入学式が行われ、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部に119人、大学院に266人が入学した。

式辞で鈴木康裕学長は「学生生活が発見とチャンスに恵まれるよう教職員一同、力を尽くしたい」と、三浦総一郎大学院長は「人生の目標となるテーマを見つけてほしい」と呼びかけた。

学部新入生代表の心理学科、岡本なえさんと大学院生代表の医学研究科博士課程医学専攻、熊澤芽葉恵さんがそれぞれ「今日の気持ちを忘れず、努力を積み重ねていく」「将来的な(社会の公衆衛生)対策についてより良い方法を研究したい」と決意を披露した。

(広報部 赤津良太)



●講堂で行われた入学式

大川キャンパス

福岡保健医療学部、福岡薬学部及び大学院の入学式が、4月7日、大川キャンパス講堂で行われ、学部新入生353人、大学院新入生36人が入学した。

式は、鈴木学長と三浦大学院長、高木理事長の式辞に始まり、来賓の倉重良一大川市長が祝辞を述べられた。続いて、学部新入生代表で言語聴覚学科の鳥谷咲希さん、大学院新入生代表で理学療法学分野修士課程の松崎泰則さんが誓いのことばを述べた。この中で、鳥谷さんは、小学生のころに吃音に悩む友人を明るく快活に変えた言語聴覚士の存在を知り、進路を決めたことを述べ、患者さんを笑顔にする言語聴覚士を目指ししていくと決意を語った。

(広報 帆足リエ)



●桜の下で記念撮影する新入生

塩谷看護専門学校

塩谷看護専門学校は4月7日、本校講堂で入学式を執り行い、新たに41人が入学した。

式では、須田康文学校長が「3年後に看護師となることを誇りに思い、力強く前に進んでいきましょう」と激励の言葉を贈った。

続いて、在校生代表の君嶋秀人さん(3年)から「出会いを大切にし、自分の理想とする看護師をめざしてともに頑張りましょう」の歓迎のことばを受け、新入生代表の田口歩実さんが「国家試験合格という目標に向かい、実りある学校生活を送っていきたい」と誓いのことばを述べた。

(事務部 田島鮎子)



●新入生の誓いのことば

Greetings

新任のごあいさつ

薬学部 学部長
三浦 裕也

東北大學薬学部卒業、同大学院薬学研究科後期課程修了。薬学博士。山之内製薬株式会社入社（現アステラス製薬株式会社）主席研究員、創薬代謝研究室長。その後、日本血液製剤機構（旧 日本赤十字社血漿分画センター）技術開発部長を経て、青森大学薬学部教授に着任。学科長、学部長を歴任。専門は、薬物動態、生体薬物分析および社会薬学。

このたび、薬学部長を拝命いたしました。重責を担うことになり、心身とも引き締めて職務にまい進する所存です。本学の薬学部は「臨床に強い薬剤師」の育成に重点を置いており、基礎から臨床まで広範な内容を学ぶことになりますが、附属病院や本学の関連施設と提携を深め、優れた薬剤師の育成に努めています。一方、コロナ禍の薬剤師業務の変化、薬機法改正による薬剤師を取り巻く環境の変容など、これまでとは異なる対応が薬剤師に求められています。そのため、教育にも新しい試みが必要であり、それらにも積極的に取り組んでいきます。今後とも、ご指導ご鞭撻賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

成田看護学部 学部長
井上 智子

千葉大学大学院修了、聖路加看護大学助手、千葉大学助教授、東京医科歯科大学教授、国立看護大学校長などを経て、本学大学院教授・成田看護学部長に着任。

このたび、国際医療福祉大学大学院教授、ならびに成田看護学部長を拝命いたしました。前任は国立研究開発法人国立国際医療研究センター国立看護大学校長を6年間務めましたが、その前も東京医科歯科大学、千葉大学、聖路加看護大学（現：聖路加国際大学）で教鞭を執り、職業人生の大半を看護学教育とともに歩んできました。医療専門職の総合大学のなかにあり、さらには大学院教育と学部長兼務という看護職育成の有機的連携を図る上で大変恵まれた立場にあることを充分に生かし、次代を担う看護職育成に取り組んでまいります。看護系大学が増加するなか、受験生や人々に選ばれ、よき人材を輩出し続ける学部・大学であるよう尽力してまいります。

小田原保健医療学部 学部長
小森 哲夫

弘前大学卒業。弘前大学大学院医学研究科修了。博士（医学）。東京都立神経病院で神経難病診療と研究。Western Ontario大学神経科学教室へ留学。国立病院機構箱根病院長、国立病院機構本部審議官。日本神経学会難病医療体制セクションリーダー。日本神経治療学会功労会員。日本臨床神経理学学会名誉会員。学会賞受賞（2017年）。厚生労働省「難病患者の総合的地域支援体制に関する研究班」研究代表者。

このたび、小田原保健医療学部長として着任いたしました。前任の国立病院機構箱根病院以来、小田原保健医療学部とのお付き合いも10年を超え、大変親しみがあります。小田原保健医療学部の3つの学科は、人口減少、高齢化を見すえた社会において医療と福祉の両面で大変重要な職種です。神奈川県西部における主要な医療人材育成機関として、これまで以上に地域に根差し、愛し、貢献できる幅広い視野と知識を有する学生を育て、輩出する責務を負っています。医療や福祉の現場で必要とされる適応力・実践力育成を含めた教育も模索しつつ、職責を果たしていくれば幸いと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

保健医療学部 作業療法学科 学科長
陣内 大輔

熊本リハビリテーション学院卒業。国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻博士課程修了。保健医療学博士。認定作業療法士。

このたび、保健医療学部作業療法学科長を拝命いたしました。初代学科長杉原素子先生から脈々と流れる作業療法士教育の伝統を大切にしつつ、さらなる発展をめざすことが求められ、身の引き締まる思いです。昨今、学校養成施設指定規則の改定も含め作業療法士教育も過渡期を迎えていました。これを機に他キャンパスの先生方との連携をさらに深め、作業療法士教育に関する課題解決に向けた取り組みを充実進展させてまいりたいと思います。もとより微力ですが、学科教員で協力して教育研究に取り組む所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

成田保健医療学部 作業療法学科 学科長
谷口 敬道

国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒。東京理科大学卒、日本大学大学院理工学研究科修了。工学博士。重症心身障害児施設、本学設立準備財団を経て着任。前保健医療学部作業療法学科長。

このたび、新たに成田キャンパス作業療法学科長を拝命いたしました。栃木県大田原市に本学が開学する2年前の1993年より本学設立準備室の一人として入職、大田原で27年間学務に携わり、作業療法学科長も7年間、拝命しております。これまで約2,500人の作業療法士を輩出し、建学の精神「ともに生きる社会の実現」の推進役となっている姿に、驚きと感動をいただいています。私の使命は、各キャンパスの作業療法学科の教育水準のさらなる向上です。学生たちが高い実践能力を身に着け、自信をもって臨床に立つことができるよう教育体制を拡充していく予定です。みなさまのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 心理学科 学科長
橋本 和明

本学大学院 臨床心理学専攻主任
名古屋大学教育学部教育心理学科卒業。武庫川女子大学大学院修士課程修了。名古屋家庭裁判所など全国各地の家裁調査官を歴任。大阪家裁の主任家庭裁判所調査官を退職後、花園大学社会福祉学部教授、同学部長を歴任。

このたび、心理学科長に着任することになりました。私は家庭裁判所で調査官を長年してきたことから、犯罪心理学や児童虐待を専門にする研究者であり臨床家です。今も犯罪の加害者、被害者の心理鑑定などをお引き受けする機会が多く、トラウマや発達障害などがあるために生きにくさを感じておられる人の心理的支援をしています。そんなクライアントの方となんとか生きていく知恵と一緒にしおりだすような関わりを心がけています。私は大阪生まれの大坂育ちです。おもしろいことをどこまで言えるか自信はありませんが、大阪弁は矯正しようとしてもできませんでした。末永くおつきあいいただけますよう「よろしく」お願いいたします。

国際医療福祉大学病院 病院長
鈴木 裕

東京慈恵会医科大学卒、医学博士。第25回PEG・在宅医療学会学術集会会長。日本外科学会認定指導医・外科専門医、日本消化器外科学会認定指導医・消化器外科学専門医、日本消化器内視鏡学会認定指導医・消化器内視鏡専門医などの資格を有し、胸腔鏡手術においては消化器系がんの入院期間を短縮させ、患者様の早期社会復帰に尽力する外科医。

このたび、国際医療福祉大学病院長に就任いたしました。当院は、感染症対策にも万全の体制で取り組むことはもちろん、地域のみなさまの健康をお守りし、信頼される医療を提供するため、診療体制をより一層充実させ、臨床・研究・教育の3本の柱を今以上に強固なものとすべく精進してまいります。また、2020年より国際医療福祉大学医学部の年間100人を超える医学部生が、医師の指導のもと実習に励んでおります。他にも、看護、医療技術系、薬学など、年間延べ3,000人以上の実習生を受け入れ、国際医療福祉大学グループの教育を支えています。本年4月には「那須シミュレーション医学センター」も開設し、学生実習、研修医、看護職、その他の医療職の研修等に利用しております。今後とも、格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

塩谷看護専門学校 校長
須田 康文

慶應義塾大学卒、医学博士。国際医療福祉大学医学部教授。慶應義塾大学医学部客員教授。元慶應義塾大学病院整形外科診療科副部長。元国際医療福祉大学三田病院整形外科部長。国際医療福祉大学塩谷病院長。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

4月1日より、国際医療福祉大学塩谷看護専門学校校長を拝命いたしました。本校は前身の栃木県厚生連塩谷看護専門学校から、2009年4月に国際医療福祉大学が承継し現在に至っています。校長は、江口光興先生、岩本俊彦先生に次いで、私で3代目です。豊かな専門知識、高度な技術、人を思いやるやさしい心を、習得すべき3つの柱として掲げ、看護師国家試験全員合格の最終目標に向かって学生、教員が一丸となって励んでいます。グループ関連施設のみなさまには、臨地実習、講義等でいつもお世話になっております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

新宿けやき園 施設長
柳川 敬

国際基督教大学卒、社会福祉士。大日本印刷株式会社、都内在宅介護事業所での勤務経験を経て、国際医療福祉大学グループに入職。入職後は、グループ人事部にて、新宿けやき園の立ち上げ、国際医療福祉大学塩谷病院の承継等を担当の後、医療福祉管理部にて、主にグループ福祉・介護施設の運営管理業務に従事。

このたび、新宿けやき園施設長を拝命いたしました。当園は緑多い静かな環境のなか、特養と障害者施設を併設する特色ある施設で、開設より14年を経ようとしております。福祉・介護業界が人材不足に直面するなか、本年5月には、マンマーの特定技能介護人材9人の受け入れが実現します。これまで、医療面では三田病院、人材面では栃木・九州のグループ施設に多大なご協力をいただき、今の当園があります。今後は、人材育成に強い施設を目標にして、地域のみなさまやグループに貢献のできる施設運営をめざしてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

柳川リハビリテーション病院 病院長
山内 豊明

久留米大学医学部卒。医学博士。日本専門医機構認定整形外科専門医・整形外科専門研修指導医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、高邦会高木病院整形外科部長、医局長、臨床研修委員長、地域連携部長、副院長を経て現職。

このたび、柳川リハビリテーション病院病院長を拝命いたしました。私は長年高木病院で四肢の骨折など急性期の外傷や、慢性疼痛の治療にたずさわってきた経験で患者様の家庭、社会復帰へのリハビリテーションの重要性を強く認識しています。柳川リハビリテーション病院は1990年の開院以来、リハビリテーション専門病院としての地域医療の重要な役割を担ってまいりました。井上明生名誉病院長、樋口富士男名誉病院長が築き上げた歴史ある柳川リハビリテーション病院をさらに発展させるべく、医師だけでなく、看護師、リハスタッフなどのメディカルスタッフと連携して「リハビリテーション365日体制」を実践し、患者様が満足できるチーム医療を行うことで地域医療の発展に全力を尽くす決意です。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

金丸こども園 園長
森嶋 京子

作新学院女子短期大学（幼児教育科）卒。短期大学卒業後、大田原市職員として市内の公立保育園に40年間勤務。2018年4月からささぎ保育園園長を務め、2022年3月に大田原市役所を退職。同年4月に着任。

このたび、金丸こども園園長を拝命いたしました。私はこれまで公立保育園に勤務し、保育士そして園長として保育に携わってまいりました。園の理念「共に生きる社会」の実現に向けて、互いを認め合い、心身の健康と豊かな人間性を持った子どもを育成する、質の高い保育をめざしてまいります。また、子どもの個性を尊重し、成長を保護者とともに喜びあえる園でありたいと考えております。

自然豊かな環境の中、魅力あふれるこども園になれるよう努力してまいります。今後とも皆さま方からのご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

赤坂山王保育園 園長
篠原 さかえ

聖徳大学短期大学部卒業。卒業後に、保育士として江東区に勤務。その後渡英。帰國後は、株式会社プロダクションおよび株式会社オフスターを経て、学校法人滋慶学園に入職。にじのいるか保育園千石・千石第二園では園長を務めた。本年4月より赤坂山王保育園に着任。

このたび、赤坂山王保育園園長を拝命いたしました。2018年の指針改定後、子どもたちの教育は大きく発展しようとされています。保育や幼児教育が人間の一生に果たす役割が大きいことが証明され、0歳児からの育ちを丁寧に支えることが生き方の土台になるものを育てていく、ということがわかっていました。子どもたち一人ひとりのまのまの姿を受け止め、保護者に寄り添い、「教育」「医療」「福祉」の連携を強みとして、園に携わる全ての人が笑顔あふれる保育園をめざしてまいります。今後とも、みなさまからのご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

Campus report special edition



大友邦前学長 退任特別講義・退任記念講話

キャンパスレポート特別編

2016年4月から6年にわたり本学の学長を務められた大友邦前学長が、2022年3月をもって退任された。退任を目前に控えた3月、「～How to get through the world～」をテーマに、成田キャンパスで「退任特別講義」、大田原キャンパスで「退任記念講話」を行った。いずれのキャンパスにも学生を含む多くの聴衆が集まり、大友先生の学長としての最後の講義に聞き入った。

成田キャンパス**医師としての「商品価値」を高めよ**

本学の第4代学長の大友邦先生が、3月2日午後、医学部の学生や他学部を含めた教職員を前に約1時間の特別講義を行った。

2016年の学長就任から医学部草創期の思い出や、公務で訪れた世界各地の印象などを自身で撮影した写真とともに語るところから講義は始まった。

また、「医師になるみなさんへのささやかなアドバイス」として、大友先生は、臨床と研究の道が二者択一ではないことを示し、医師としての「商品価値」を高め、「自分の適性を冷静に見極める」ことが今後より重要になると述べた。最後に「みなさんの活躍する世界が平和でほしいものであることを祈る」と講義を締めくくった。

講義の終了後、医学部の学生を代表し、インドネシア人留学生チョコルダ・リオ・アンジェリナさんから感謝の花束が大



●講演後、インドネシア人留学生
チョコルダ・リオ・アンジェリナさん(左)
から花束を贈られた大友邦先生

友先生に贈られた。

会場の学生からは「自分も先生のご専門の放射線科の志望。先生のお話にあったように幅広い対象から自分にあった専門を見つけたい」、「世界の国との交流について、歴史も踏まえて語っていただき勉強になった」といった熱っぽい反応が返ってきた。(成田総合教育センター 山本秀也)

大田原キャンパス**学長としての6年間を振り返って**

大友前学長の退任に伴い3月17日、退任記念講話が行われ、学生約40人を含む約200人が参加したほか、全キャンパスにZoomで配信された。

講話では本学が医学部開設や東京赤坂キャンパス開設など新たな進化を遂げた期間の学長としての6年間を振り返った。講話後、大友先生の肖像画がお披露目された。先生の肖像画は歴代学長らの肖像画とともに大田原キャンパスの理事会室に飾られる。続いて新井田孝裕副学長より大友先生に記念品が贈呈され、阿部晶子教務委員長より花束が贈られた。

講話の終了後、管理棟1階の玄関付近には教職員100人以上が集まり、これまでの感謝を込めて盛大にお見送りした。

(総務広報部 村雲克典)

令和4年度 学部・大学院・特別専攻科 新入生概要**学部新入生概要**

キャンパス	学部	学科	入学者数
大田原	保健医療学部	看護学科	119
		理学療法学科	104
		作業療法学科	82
		言語聴覚学科	80
		視機能療法学科	54
		放射線・情報科学科	115
医療福祉学部	医療福祉・マネジメント学科	学部合計	554
		薬学科	143
		大田原キャンパス合計	886

キャンパス	学部	学科	入学者数
大川	福岡保健医療学部	理学療法学科	65
		作業療法学科	40
		言語聴覚学科	32
		医学検査学科	87
		学部合計	224
		福岡薬学部	薬学科
全学部合計	大田原キャンパス合計	大川キャンパス合計	353
		2135	

大学院新入生概要

課程	研究科	専攻	入学者数
修士課程	医学研究科	公衆衛生学専攻	17
	保健医療学専攻	193	
	医療福祉学研究科	医療福祉経営専攻	59
		臨床心理学専攻	35
	薬科学研究科	生命薬科学専攻	0
	修士課程合計	304	
博士課程	医学研究科	医学専攻	21
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	63
	薬科学研究科	医療・生命薬学専攻	1
	博士課程合計	85	
大学院合計			389

特別専攻科新入生概要

臨床工学特別専攻科	合計	6
-----------	----	---

Graduates' Selection

東京赤坂キャンパスから初の卒業生



●記念撮影する卒業生

第1期生111人 晴れの旅立ち

東京赤坂キャンパスで3月12日、2021年度の国際医療福祉大学・大学院の学位記授与式・伝達式が行われた。2018年春に入学した赤坂心理・医療福祉マネジメント学部の第1期生が、ついに旅立ちの日を迎えた。

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部で卒業を迎えたのは、心理学科62人、医療マネジメント学科49人の計111人。初めてのおめでたい節目とあって、この日は朝から、華やかな羽織袴(はかま)をまとった学生たちが、通いなれた坂道を家族連れで上ってくる姿が目立った。正面玄関では式の案内看板を前に、思い思いに記念写真を撮影していた。

式典では、まず学部と大学院のそれぞれ代表1人に、舞台上で学位記を授与。学部の卒業生代表として総代の心理学科、鈴木結実菜さんに大友邦学長から、また大学院の修了生代表として医学研究科医学専攻社会医学研究分野の頓所つく実さんに三浦総一郎大学院長から、それぞれ学位記が手渡された。続いて学長賞と大学院長賞が発表された。



●大友学長から学位記を授与される総代の鈴木さん

「若い時の経験に無駄はない」

「第1期生の活躍を祈っている」高木理事長

高木邦格理事長は、大田原キャンパスに医療経営を学ぶ学科を設けた際の経緯に触れつつ、「医療に強い心理学科、そして東京のど真ん中でも医療経営分野の学科をきちんとした形で整え、学部・大学院を一体化した文系の学科を作りたかった」と、東京赤坂キャンパス開設のねらいを振り返った。「これがうまくいったかどうかは、今日の卒業生の活躍次第。若い時の経験に無駄なものは何一つない。『石の上にも三年』という言葉もあるし、ひとつのことを3年から5年は勉強して次を考えればいい」と声援を送った。

また教職員に対しても「新しい学部はご苦労だったと思う。みなさんに感謝したい」と労をねぎらった。そして「国際医療福祉大学の卒業生は今年で3万人を超えた。ほとんどの医療福祉施設には卒業生がいる。就職後も大学院や生涯学習センターが整っていて、何かあつたらいつでも対応してくれる」とサポートを強調し、「東京赤坂キャンパス第1期生の活躍を祈っている」と結んだ。



「知識や経験を生かして邁進する」

卒業生代表

これに対して医療マネジメント学科の相良栄里さんは謝辞で、「知識や経験を生かして、今後の医療福祉の発展に向け邁進する」と決意を表明。大学院の頓所つく実さんは「高度な知識を持つ卒業生として、研究を社会に還元できるよう役割を果たす覚悟です」と宣言した。

学位記伝達式は各学科や分野に分かれて行われた。心理学科の式典では、中田光紀学科長が感涙にむせびながら卒業生に学位記を渡した。祝辞では「信頼される人間になってください。1期生の誇りをもって世に羽ばたいていただきたい」と熱いエールを送った。

大田原キャンパス 学位記授与式

大田原キャンパスの2021年度学位記授与式は3月11日に行われた。

この日、学位記を授与されたのは学部生745人、大学院修了生45人。学部生総代として小澤巴菜さん（作業療法学科）、修了生総代として塙雄太さん（博士課程・医療福祉学研究科）に学位記が手渡された。

大友邦学長は式辞で「自分の力ではどうにもならない苦境に陥ることがあるかもしれません。そのようなとき、新型コロナウイルス感染拡大で苦労をし、我慢した経験を思い出してください。試練に対する強い免疫を獲得されているはずです。くさらずに次のステージをめざしてください」と呼びかけた。三浦総一郎大学院長、高木邦格理事長の式辞の後、来賓の津久井富雄大田原市長、小川俊彦栃木県保健福祉部次長から祝辞をいただいた。

卒業生総代の小澤さん、修了生総代の塙さんはそれぞれ「専門職としての自覚を持ち、職場で率先して行動できるように努力します」「一つひとつを積み重ね、医療、福祉の分野、そして社会に貢献していきます」と力を込めた。

（総務広報部 村雲克典）



●卒業生総代 作業療法学科小澤巴菜さん



●学位記授与式式典風景

小田原キャンパス 学位記授与式

小田原保健医療学部・大学院では3月10日、守屋輝彦小田原市長、国立病院機構箱根病院小森哲夫院長（＊）はじめ多くの来賓の方々にご臨席を賜り学位記授与式が挙行された。

学部卒業生は190人、熱海・小田原地区の大学院修了生は19人であった。2021年度の学長賞は曾根誠麗さん（看護学科）、林紗穂さん（理学療法学科）、関根郁実さん（作業療法学科）に授与された。

大友邦学長と三浦総一郎大学院長からは、学部総代の曾根誠麗さんと大学院総代として博士課程の魚岸実弦さん（医療福祉学研究科 保健医療学専攻）にそれぞれ学位記が授与されるとともに、卒業生・修了生に将来への期待をこめた式辞が述べられた。

ご来賓のみなさまからも温かい祝辞をいただき、学部卒業生を代表して林紗穂さん、大学院修了生を代表して修士課程の由井裕人さん（医療福祉学研究科 保健医療学専攻）が謝辞を述べた。（＊）2022年度から小田原保健医療学部 学部長

（事務部 小柳津恵）



●大友学長による学長賞授与



●祝辞を述べる守屋小田原市長

成田キャンパス 学位記授与式

春の暖かさに包まれた3月13日、3回目となる成田キャンパスでの学位記授与式が挙行され、大友邦学長から成田看護学部生109人、成田保健医療学部生238人に、三浦総一郎大学院長から大学院生34人に学位記が授与された。

大友学長は、「社会に出て努力が報われず、苦境に陥ることがあるかもしれないが、新型コロナウイルスの感染拡大でさまざまな苦労をし、やりたいことを我慢した大学での経験を思い出してほしい」と祝辞を述べた。

卒業生総代の荒井裟都さんと修了生代表の岡愛子さんが謝辞を述べ、荒井さんは、実習を振り返り、「医療に携わる専門職としての自覚を持ち、日々精進していきたい」と誓った。また、岡さんは、「本学で学んだことに自信と誇りを持ち、高度な専門性を持つ国際的な医療人、そして研究者として、それぞれの道で指導的役割を担っていく」と力強く語った。

（広報 綿貫尚子）



●謝辞を述べる荒井裟都さん



●式辞を述べる大友学長

大川キャンパス 学位記授与式

福岡保健医療学部の学位記授与式は3月8日、大川キャンパス講堂で挙行され、大友邦学長から216人に、三浦総一郎大学院長から大学院生40人に学位記が授与された。

これまで学位記授与式は、福岡市において大川・福岡2キャンパス合同での開催だったが、昨年4月に福岡市の福岡看護学部を姉妹校の福岡国際医療福祉大学へ移管したため、大川キャンパスでの実施は2013年3月以降、実に9年ぶりとなった。

大友学長は式辞の中で「新型コロナウイルス感染の拡大で苦労や我慢を重ねた学生生活を糧とし、夢や希望を持って次のステージをめざしてほしい」と卒業生にエールを贈った。

続いて三浦大学院長が式辞を述べ、最後に高木邦格理事長が「本学で身につけたチーム医療の精神を忘れずに、それぞれの分野のスペシャリストとして、責任と任務を確実に果たしていくことを期待している」と締め括った。これに対し、卒業生謝辞を理学療法学科の柿本渚帆さんが、修了生謝辞を修士課程保健医療学専攻の大賀優さんが述べ、さらなる飛躍を誓った。

（広報 帆足リエ）



●会場入りする卒業生



●柿本渚帆さんによる卒業生謝辞

卒業生総代

大田原キャンパス
保健医療学部 作業療法学科

小澤 巴菜

成田キャンパス
成田看護学部 看護学科

荒井 蕎都

期待と不安の入り混じった入学式から4年の月日が過ぎました。そのなかで、数多くの貴重な経験とかけがえのない人々との出会いがあり、人間としても大きく成長することができました。この4年間、ご指導いただいた先生方、共に支え合ってきた友人、そして見守ってくれた家族には深く感謝しております。

現在、世界は新型コロナウイルス感染症との闘いに直面しています。まだ未熟な私達ですが、専門職としての自覚を持ち、それぞれの職場で率先して行動できるよう努力するとともに、相手の立場に立った医療や福祉を実践することで、共に生きる社会の実現に貢献できますよう、精進してまいります。

小田原キャンパス
小田原保健医療学部 看護学科

曾根 誠麗

大川キャンパス
福岡保健医療学部 医学検査学科

川原 健太郎

私にとって非常に成長でき、学びが多く、出会いの多かった4年間でした。初めは、不安と大きな期待を胸に入りました。4年間の学生生活のなかで楽しいことだけでなく、大変なこともありました。その試練を乗り越えられたのは、大学の先生方や友人、家族や実習先の指導者の方々など多くの支えがありました。また、この方々の支えがあったことで、コロナ禍での実習などが以前のように臨地で行えなくとも、学内実習ならではの学びや、改めて「看護とは何か」などを考えることができ、大きな学びを得ることができました。

4月から1人の医療従事者として、日々周囲の方々への感謝を忘れず、大学生活での学びを生かし、今後も成長していきたいと思います。

東京赤坂キャンパス
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
医療マネジメント学科

相良 葉里

新しいキャンパスで多くの専門的知識を学べることへの期待と、先輩がいないことへの不安が混じり合った入学式から4年の月日が経過しました。この4年間は、コロナ禍でさまざま

な制約がありましたが、充実した日々を送ることができました。

初めは専門性の高い学習内容とその量に戸惑いましたが、先生方の丁寧かつ熱意あるご指導により、多くの専門的知識や社会人としての心構えを身につけることができました。また、いつも応援してくれた家族、ともに支え合ってきた友人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。

これから先、多くの壁や困難があると思いますが、本学で学んだことを生かし、支えてくださった方々への感謝を忘れず努力し続けていきたいと思います。

学長賞

大田原キャンパス

卒業生総代
保健医療学部
作業療法学科
小澤 巴菜

保健医療学部
看護学科
日下 結稀

卒業生総代
(11ページに掲載)

成田キャンパス

卒業生総代
成田看護学部
看護学科
荒井 裕都

成田保健医療学部
理学療法学科
滝澤 麻梨亞

卒業生総代
(11ページに掲載)

大田原キャンパス

保健医療学部
言語聴覚学科
安納 英里

保健医療学部
視機能療法学科
本田 朱里



成田キャンパス

成田保健医療学部
言語聴覚学科
霜鳥 将

成田保健医療学部
医学検査学科
柴田 陽来



大田原キャンパス

医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科
金子 梨菜

薬学部
薬学科
安嶋 美紀



大川キャンパス

卒業生総代

福岡保健医療学部
理学療法学科
柿本 渚帆

福岡保健医療学部
作業療法学科
幸山 千紘

福岡保健医療学部
言語聴覚学科
久保田 遥香



小田原キャンパス

卒業生総代
小田原
保健医療学部
看護学科
曾根 誠麗

小田原保健医療学部
理学療法学科
林 紗穂

小田原保健医療学部
作業療法学科
関根 郁実

卒業生総代
(11ページに掲載)

東京赤坂キャンパス

卒業生総代

赤坂心理・医療福祉
マネジメント学部
心理学科
鈴木 結実菜

赤坂心理・医療福祉
マネジメント学部
医療マネジメント学科
相良 桑里

卒業生総代
(11ページに掲載)

大学院長賞

医学研究科 博士課程

医学専攻 社会医学研究分野

頓所 つく実



このたびはこのような賞をいただき大変光栄に存じます。ご指導いただきました中田光紀教授、社会医学研究分野の先生方、ゼミの仲間たち、ご支援くださいました大学事務局のみなさ

医学研究科 修士課程

公衆衛生学専攻

亀山 哲



栄えある賞をご選出いただき、ご指導いただきました石川ベンジャミン光一教授、論文執筆の際多くのご助言をいただきました池田俊也教授、桜井亮太教授をはじめ多くの先生方に、心より御礼申し上げます。

医療福祉学研究科 修士課程
保健医療学専攻 視機能療法学分野

漆原 美希



この度は栄えある賞をいただき、誠にありがとうございます。仕事と学業の両立は想像以上に多忙を極め、葛藤する場面も多々ありました。しかし、周囲の方々の支えや指導教員の細や

ま、研究にご協力いただいたみなさま、家族に、心より感謝申し上げます。

修了に至るまで、国際学会での発表、論文投稿、査読、研究費への応募、民間研究所への就職など、さまざまな経験をさせていただきました。しかしながら、知識・経験はまだ浅く、入口に立ったばかりと感じます。得られた結果に対して深慮できていないことも多く、今後も学ぶべきことは尽きません。少しづつでも成長できるよう日々の努力を怠らず、将来、先生方やみなさまに自慢していただけるよう精進してまいります。

外部環境の変化を好機と捉え、果敢な挑戦の日々でしたが、同期のみなさまとの他愛のないやり取りに励まされ、何とか乗り切ることができました。また、社会人生活を続け頭が固くなっていた自分にとって、数々の講義や研究で出会った知識は非常に刺激的で、日々の仕事の枠を越え大きく視野を広げることができました。

これからも来るべき環境変化に備え、大学院で得られた学びと少しの自信を基に、多くの知識の架け橋となる人材となるよう、高みをめざしていきたいと思います。

かな指導もあり、非常に充実した2年間となりました。在学中はありがたいことに学会で発表する機会もいただき、大変良い経験となりました。今後も大学院で学んだことを基に、学会発表から論文執筆に至るまで、より一層研究に精進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、このような賞をいただけたのも、指導教員である新井田孝裕教授をはじめ、佐藤司講師、視機能療法学分野の先生方、ならびに研究にご協力いただいた方々のお陰だと実感しております。心より感謝申し上げます。

塩谷看護専門学校卒業式

塩谷看護専門学校は3月3日、本校講堂で卒業式を執り行なった。

国際医療福祉大学の新井田孝裕副学長の式辞をいただき、34人の新たな門出を祝った。式では、岩本俊彦学長が卒業生代表・青木由比さんに卒業証書を手渡し、

「切磋琢磨という言葉を思い出して、社会で活躍する看護師のプロになってください」と、はなむけの言葉を贈った。

その後、卒業生の代表として高松なづなさんが「この3年間は憧れだけでは超えられない壁の連続でした。自分に負けずここまでこられたのは、心強い34人の

仲間がいてくれたからです」と答辞を述べた。卒業生は気持ちを新たに、看護の道の第一歩を踏み出した。卒業生の更なる飛躍と今後の活躍を教職員一同期待している。

(事務部 田島鮎子)



●卒業証書授与

2021年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

【看護学分野】

- ・鬼塚 美玲 横雪寒冷期大地震に対する病院のリスクマネジメントに関する研究 -看護部門のリスクと備えに焦点をあてた検討-
- ・宮崎 裕子 自然災害時の避難所におけるがん患者のセルフケア維持に必要な支援に関する基礎研究
- ・本谷 久美子 看護学教師のコンピテンシーに基づく「看護学実習における病態教授活動評価尺度」の開発
- ・有田 久美 「高齢者の退院支援に向けた看護師の服薬管理実践評価尺度」の開発
- ・未永 陽子 災害により生活基盤を失った被災者の人生の再構築に影響を及ぼす要因～発災から5年間の経時的变化に伴う要因の特徴～
- ・五十嵐 貴大 看護学生の臨地実習指導者に対する援助要請の意思決定尺度の開発
- ・齋藤 嘉宏 在宅認知症者の家族介護者に対する電話を用いた認知行動療法プログラムの開発と有用性の検証
- ・清水 信輔 若年労働者における食生活リテラシー尺度の開発と関連要因の検討
- ・田中 博子 医療者のCultural Sensitivity尺度の開発
- ・駿河 純理子 月経前症候群の勤労女性に対するセルフケア学習プログラムの開発および評価
- ・中島 洋一 緩和ケア病棟入院患者のMQOL-R日本バージョン評価尺度の開発および緩和ケア病棟入院患者のQOLに関連する要因
- ・小園 由恵子 看護師が重度認知症高齢者に提供する口腔ケア方法選定のためのチャート作成
- ・道面 千恵子 健康教育に対する看護職のビリーフ～看護師と保健師のビリーフ比較検討～
- 【助産学分野】
- ・座波 ゆかり 初産で無痛分娩を選択する女性の意思決定プロセスと助産師の支援の在り方についての検討
- 【理学療法学分野】
- ・有家 尚志 Physical Therapists' Perception and Educational Opportunities to Improve Exercise Adherence in Older Patients and Clients: A Qualitative Study
- ・泉 良太 臨床推論指導における作業療法士の指導特性と指導者満足度の関連
- ・尾張 剛 回復期リハビリテーション病棟における高齢入院患者の精神機能と機能的利得に関与する自律神経機能評価の臨床的有用性の検証
- ・葛 萌 Analysis of the Relationship Between the Transversus Abdo-minis and Lower Back Pain using an Ultrasound Abstract(超音波診断装置を用いた腹横筋厚と慢性腰痛との関係について)
- ・柴崎 韶都 Does an interference task immediately after practice prevent memory consolidation of sequence-specific learning?
- ・鵜澤 寛伸 筋骨格性慢性疼痛患者における中枢性感作の有無が自律神経活動に与える影響
- ・佐々木 拓良 Examination of Changes in 6-minute Walk Distance and Re-related Factors in Patients with Perioperative Peripheral Arterial Disease
- ・塙 雄太 体位の違いが持続発声最終域の腹部体幹筋の筋厚に与える影響
- ・平野 健吾 回復期リハビリテーション病棟における患者満足度の要因 -PX患者経験値を用いて-
- ・杉田 裕汰 訪問リハビリテーション利用者における地域差への関連要因
- ・劉 瑄 The reliability and effectiveness of shoulder joint evaluation by ultrasound in stroke patients: deltoid muscle thick-neck, acromion-humeral distance, acromion-lesser tuberosity distance
- ・シュウ ヒン 赤外線運動時間測定システムを用いたTimed up & go test 各運動セクションの測定信頼性の検討 (Reliability of infrared motion-time acquisition system for each motion segment in the timed up-and-go test)
- ・律 琳 Effects of inner muscle resistance exercise on stress urinary incontinence: A randomized clinical controlled trial(腹圧性尿失禁に対するインナーマッスル抵抗運動の効果:ランダム化臨床比較試験)
- 【作業療法学分野】
- ・魚岸 実弦 精神保健福祉領域におけるピアサポートの中斷に至る要因に関する探索的研究～3グループにおけるフォーカスグループディスカッションを通して～
- ・栗城 洋平 長期入院統合失調症患者の食行動に関する研究～患者と病棟看護職の語りから～
- ・仙波 梨沙 WHODAS 2.0 12項目版における生活障害とDASC-21との関連性の検証
- ・松野 豊 2種の袖通し動作の定量的評価 一体幹と肩甲帯の運動に着目して～統合失調症における結果の飛躍の有無と社会機能、リカバリーの比較
- ・椎名 義明 軽度パーキンソン病患者の特徴的運動指標抽出に関する研究 ～赤外線LEDセンサーによる前腕回内回外運動の評価～
- ・鈴木 美咲 小学校低学年児を対象とした板書の書き写し課題の類別化 一頭頸部角度変化と書き写し効率に基づく検討
- ・野崎 智仁 就労移行支援事業所Aを利用し就労定着した精神障害者の後方視的研究 ～一般就労開始時の精神症状および社会生活技能の関係性～
- ・長 志保 知的障害を伴う自閉スペクトラム症児と養育者の交流の分析
- 【言語聴覚分野】
- ・大森 史隆 遠隔嚥下検査(RED)の信頼性と妥当性: 健常高齢者と口腔癌患者における調査
- 【福祉支援工学分野】
- ・平野 美理香 一般病棟師長と看護師から見た、アドバンス・ケア・プランニングの取り組みの現状と課題
- ・和田 直樹 高齢者の座位から斜め前方への歩行開始動作の分析
- ・平野 博文 脳卒中片麻痺者の座位前方リーチ動作の分析 一荷重と姿勢に着目して一
- ・凌 華 固定式と油圧底屈制動の装具が片麻痺者の歩行中の骨盤と体幹の動きに及ぼす影響 (Effect of a rigid ankle foot orthosis and an ankle foot orthosis with an oil damper plantar flexion resistance on thoracic and pelvic movements of patients with stroke during gait)

【リハビリテーション学分野】

【医療福祉経営学分野】

- ・平田 大勝 暗所環境での開眼がフォームラバー上での立位姿勢に及ぼす影響
- ・勝原 由香里 Correlations between SGLT-2 inhibitors and acute renal failure by signal detection using FAERS: Stratified analysis for reporting country and concomitant drugs (有害事象自動発報データベースによるSGLT2阻害薬と急性腎障害の関連性に関する検討)

- ・高田 由紀子 病院における看護副院長の経営に対する意識
- ・藤木 真平 成人におけるヘルスリテラシーと風疹・感染症予防行動、社会背景因子の関連
- ・山下 麻実 こどもの一次救命処置に関するオンライン研修の開発と実証的検討
- ・柴原 秀俊 本邦における高齢者に対する帯状疱疹ワクチンの費用効果分析

【診療情報管理・分析学分野】

- ・久野 昌子 がん登録データを用いたDPCのUICC TNM分類における精度管理と医療資源消費量のグレーピング化に関する研究

【先進的ケア・ネットワーク開発研究分野】

- ・山下 哲司 特別養護老人ホームにおける利用者の尊厳に対する介護職の意識に関する研究

【医療福祉ジャーナリズム分野】

- ・岩田 真弓 ナラティヴからみるオーストラリアで働く日本人看護師の経験～柔軟な文化や組織・教育の視点を探る～

【医療・生命薬学専攻】

- ・君島 美尚 ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬によるストレスレジリエンスの制御
- ・増渕 龍一郎 アロマセラピーの臨床応用に向けたゼラニウム精油の効果に関する研究
- ・大矢 智則 心不全患者に対する薬物治療の有効性と安全性に関する研究

【社会医学研究分野】

- ・木下 翔太郎 Changes in telepsychiatry regulations during the COVID-19 pandemic: 17 countries and regions' approaches to an evolving healthcare landscape (COVID-19パンデミックにおける17の国と地域の精神科遠隔医療規制の変化)

- ・品川 なぎさ 医学部留学生を対象とした日本語教育研究

【社会医学研究分野】

- ・頓所 つく実 Effects of participatory workplace improvement program on stress-related biomarkers and self-reported stress among hospital nurses (看護師を対象とした参加型職場環境改善の効果 一生体指標と主観的な評価を用いた調査)

- ・法月 正太郎 Factors associated with adults' actions to confirm their own rubella immune status in Japan's drive toward rubella elimination: Cross-sectional online survey of non-healthcare workers in their 20s to 40s (我が国の風疹排除に向けた、成人の風疹免疫状態を確認する行動に関連する要因分析 20から40歳代の非医療従事者に対する横断的オンライン調査)

- ・ファム ズン イエン ビン Assessments of Quality-of-care-relating medical professionalism (ケアの質に関するプロフェッショナリズムの評価)

- ・湯浅 晃 Investigation of Factors Considered by Health Technology Assessment Agencies in Eight Countries (8カ国の医療技術評価機関が考慮する要素の調査)

【臨床医学研究分野】

- ・奥井 文子 Validation of the Japanese Version of the Singing Voice Handicap Index (日本語版Singing Voice Handicap Index の信頼性と妥当性の検証)

- ・古川 明日香 Liver fibrosis index as a novel prognostic factor in patients with pulmonary arterial hypertension (肺動脈性肺高血圧症(PAH)における心肝連関と新規予後因子となる肝機能マーカー-LFIの検討)

- ・ボキム カトウエイン Effects of Hochuekkito, a traditional Japanese herbal medicine (Kampo), on reproduction of aging female mice. (老化したマウスの生殖能に対する伝統的な日本漢方である補中益氣湯の影響)

- ・元木 文子 Characteristics of olfactory dysfunction in temporal lobe epilepsy (側頭葉てんかんにおける嗅覚障害の特徴)

- ・山口 祐之 Development of a recombinant murine luteinizing hormone binding protein as a selective hormone inhibitor (組換えマウス黄体形成ホルモン結合タンパク質の選択的ホルモン阻害剤としての開発)

- ・松尾 純子 Risk for prolonged hospitalization and mortality in aged community acquired pneumonia patients: a retrospective study in Japan (高齢者市中肺炎患者の入院期間と死亡リスク因子の検討:日本における後ろ向き研究)

- ・谷口 浩久 Explainable Artificial Intelligence Model for Diagnosis of Atrial Fibrillation Using Holter Electrocardiogram Wave-forms (ホルター心電図波形を用いた心房細動に対する説明可能な自動診断人工知能モデルの構築)

- ・岡 愛子 Serum IgG4 as a biomarker reflecting pathophysiology and post-operative recurrence in chronic rhinosinusitis (好酸球性副鼻腔炎の重症度と術後再発率の予測における血清IgG4の有用性)

【作業療法学分野】

- ・押川 武志 車椅子利用者におけるクッションが安定性・安楽性および機能性に与える影響

【視機能療法学分野】

- ・鎌田 泰影 Investigation of the pathophysiology of the retina and choroid in Parkinson's disease by optical coherence tomography パーキンソン病が網膜・脈絡膜へ及ぼす影響 -光干渉断層撮影を用いた検討-

【放射線・情報科学分野】

- ・岡野 員人 栃木県における画像検査の地域偏在

Campus report キャンパスレポート

大田原キャンパス

医療福祉・マネジメント学科で認定合同授与式

医療福祉・マネジメント学科において、認定資格合同授与式が開催された。診療情報管理コースおよび医療福祉マネジメントコースに所属の2・3・4年生と、次年度にそれらのコースに所属予定の1年生が出席した。

本授与式は、その年度に取得した資格ごとに成績優秀者の代表が表彰される。4年生においては、資格取得などを参考に優秀賞および最優秀賞の学生が選出され、授与される。授与者へ表彰状が渡されるたびに、栄誉をたたえる大きな拍手が沸き起こった。

多くの学生が「診療情報管理士認定試験」に合格した(2021年度合格率95.9%)。他にも「経営学検定試験」、「日商簿記検定試験」、「医療情報基礎知識検定試験」など

経営学・会計学・医療情報学に関するさまざまな資格取得とともに「診療報酬請求事務能力認定試験」の合格者を輩出したことにも学科の特長が表れている。

(入試広報室 川上二郎)



●表彰される成績優秀者

東京赤坂キャンパス

京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥教授らが講演

3月17日に東京都港区麻布赤坂歯科医師会創立100周年、京都大学iPS細胞研究所設立10周年を記念した市民公開講座「再生医学が未来を拓く～歯の細胞とiPS細胞の可能性～」が本学及び東京都港区後援のもと東京赤坂キャンパス講堂にて開催された。

講演では京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥教授が「iPS細胞 進捗と今後の展望」と題し、父の病が契機となって医師を志したエピソードや研究活動では多くの恩人に支えられiPS細胞発見に至ったことなどについて語られた。

また日本歯科大学の中原貴教授、京都大学iPS細胞研究所の濱崎洋子教授も登壇され、各講演後のシンポジウムでは研究を行ううえで重要なことなど参加者の質問に回答し、山中教授も若手研究者へのエールを送った。

(広報部 並木祐介)



●講演を行う山中伸弥教授

小田原キャンパス

衛生委員会・防災委員会主催の研修会を開催

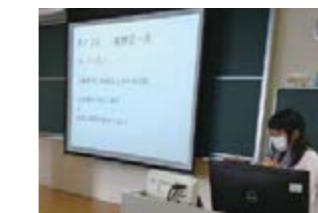
小田原保健医療学部衛生委員会・防災委員会主催の研修会が3月2日、開催された。

同委員である作業療法学科 甲本夏穂助教より「主体的な睡眠のために」というテーマでご講演をいただいた。

10個の質問に回答することで、睡眠を6タイプに分類することができ、自分の睡眠を評価できる内容で、参加者は自身の睡眠と向き合った。

また、小田原保健医療学部産業医の国際医療福祉大学熱海病院 ベ谷直人教授より「今年度の健康診断結果総括」、「新型コロナウイルスワクチンに関する最新の情報」をご講演いただいた。時勢に合った内容を分かりやすく解説していただき、大変参考になるものだった。

(総務課
村坂美希)



●衛生防災委員会研修会で
甲本夏穂助教の講演

大川キャンパス

外須美夫副学長、地元小学生に講話

医療従事者を志す心構え、説く

2月28日、大川市立木室小学校(松延聰校長・児童数204人)の6年生、33人を対象に、外須美夫副学長(高木病院病院長)が、病院で仕事をすることの魅力ややりがい、医療従事者をめざす人の心構えなどについて講話を行った。

この講話は、キャリア教育の一環として、総合的な学習の時間を利用して行われた。

子どもたちは、外副学長の、「命の大切さ」や「夢に向かってチャレンジし続けよう」との言葉を、それぞれが準備した手帳に一所懸命にメモを取っていた。積極的に質問する姿も見られ、自己実現に向けて考える良い機会となったようだ。

参加した子どもたちは「将来は高木病院の看護師になりたい」、「人の命を救うために医療の仕事について、少しでも多くの命を守って、人を笑顔にしたい」、「命をつなぐことを大事にしようと思いました」といった声が聞かれた。

また、6年生担任の梶島記代子先生からは、「この経験が、子どもたちの将来や夢の良い指針になったと思います」との感想をいただいた。

小学生を対象にした講話は今回が初めてであったが、これからも、地域の子どもたちが医療への関心を高め、自己実現に貢献できるような活動を継続したい。

(九州地区広報部長 神塚泰史)



●外副学長の講話を聞く小学生

Institution Information 施設インフォメーション

- 国際医療福祉大学病院 ●国際医療福祉大学成田病院 ●国際医療福祉大学三田病院
- 国際医療福祉大学熱海病院 ●国際医療福祉大学市川病院 ●国際医療福祉大学塩谷病院 ●山王病院

国際医療福祉大学病院

サポートイブケア外来開設

1月11日、退院後など外来で継続治療を受ける患者様とご家族の心と身体の苦しみを可能な限り緩和することを目的に、「サポートイブケア外来」を開設した。これは、入院患者への緩和ケアチームの活動を、外来患者に拡大したものである。

がん専門看護師やがん専門薬剤師を中心に多職種連携チームが、専用の面談室で、患者様やご家族の「疼痛がある」「痛みを和らげてほしい」「副作用で困っている」など治療や症状に伴う生活上の悩みをお聞きし、症状緩和のための薬剤提案、気持ちのサポート、リハビリ実施、医療相談室との相互連携、MSWによる福祉サービス利用提案、栄養相談への橋渡しなどを行っている。

従来、手薄だった外来患者の苦痛緩和を行えることや、退院後も入院時と同等のシームレスなケアを享受できることで大変好評を博しており、この外来を通じ、国際医療福祉大学グループの「多職種連携」の強みを生かし、患者様に寄り添っていきたい。

(総務課 中澤彩乃)



●面談の様子

国際医療福祉大学三田病院

「第3回 心臓大血管ライブ手術シンポジウム」を実施

1月15日、当院の三田ホールにてAsian Cardio-aortic Live-surgery Conference (ACLC) 主催の「第3回 心臓大血管ライブ手術シンポジウム」が開催された。

今回は、成人手術症例2、小児手術症例1、ビデオライブ1例での開催となり、当院の心臓外科部長の高梨秀一郎教授が「自己弁温存大動脈基部再建術」を執刀し、会場と手術室をつなぐライブ中継のなか手術を実施した。

ACLCのVice chairmanでもある高梨教授は、「手技の臨場感、執刀医の思考をその場で共有できるのはライブ手術ならではであり、非常に教育効果が高いものです。コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、みなさまのご協力のおかげで安全に開催することができました」と述べた。

国際医療福祉大学成田病院

腎泌尿器外科の市民公開講座を開催

2月19日、腎泌尿器外科の市民公開講座を開催した。宮崎淳主任教授による司会のもと、成田市の小泉市長が冒頭にご挨拶され、定期的に公開講座を開催している当院に対する感謝と今後の期待のお言葉をいただいた。

講演は、久末伸一教授による「50歳を迎えてから考えるべきこと～男性更年期から前立腺がんまで」。久末教授はこれまで1,000件超の前立腺がんにおけるダビンチ手術実績を持つとともに、男性性機能障害や更年期障害における第一人者。男性ホルモンの低下によって起こる更年期障害は予防ができることや、日本人男性の有病率第1位のがんである前立腺がんは、この20年間で診断と治療法が大きく変わったことなどについて分かりやすく解説し、100人の参加者は熱心に聴講されていた。

新年度も引き続き、地域に開かれた大学病院として市民公開講座などのイベントを開催していく。次回は6月18日(土)産科と小児科による合同開催を予定(詳細は裏表紙ご参照)。(広報室)



●講演する久末伸一教授(左)、司会の宮崎淳主任教授(右)



●シンポジウムでの手術の様子

国際医療福祉大学熱海病院

「大学病院前」バス停のリニューアル／デジタルサイネージの設置

2月7日、当院敷地内に設置されているバス停「大学病院前」がリニューアルし、デジタルサイネージが設置された。患者様や病院職員など多くの人が利用する「大学病院前」バス停だが、老朽化が進み、利用者からの要望に応えるかたちで工事が行われていた。

リニューアルしたバス停に設置されたデジタルサイネージには、病院の開院時間等の基本情報や指定施設としての特長が画面情報として表示されるほか、外国人観光客が多い観光地・熱海市の医療機関として、多言語による感染対策情報が表示されている。デジタルサイネージの画面情報は更新可能なため、常に新しい病院情報を追加しながら、バス停の利用者に有効な情報提供をしていくことにしている。

(総務課 木村玲於奈)



●リニューアルしたバス停

国際医療福祉大学市川病院

大谷病院長、学校法人市川学園で講演

千葉県内でも有数の進学校である学校法人市川学園中学校・高等学校の招きを受け、3月16日、当院の大谷俊郎病院長が同学園の国枝記念ホールに教職員を集めて講演を行った。これは、同学園が外部の講師を招聘して定期的に開催している教職員研修「なずなセミナー」に呼ばれて実現したもの。コロナ禍ではあるが、十分な距離の取れる大きなホールにて実現に至った。

講演の内容は、前半が大谷病院長の専門分野である「スポーツとの関わり合い」、大谷病院長が慕う小泉信三先生の「スポーツ観」および「スポーツが教育に与えるよい影響」を3つの宝として語られた。後半は、成長期のスポーツ障害について、専門的な立場から、トレーニング時に注意することや予防の大切さについて講演した。

毎年、同学園は全国の医学部に50人前後の合格者を出しておらず、結びには本学受験のアピールも。講演は質疑をあわせて約90分で、部活指導現場からの熱い質問が相次ぎだ。

(総務課 細田幸生)



●講演中の大谷病院長

国際医療福祉大学塩谷病院

ICLS指導者養成ワークショップの開催

2月27日、医療従事者ならば必須ともいえる「突然の心肺停止における適切なチーム医療による対処」の習得を目的としたICLS (Immediate Cardiac Life Support) コースにおいて、受講生を指導するインストラクターを養成するためのワークショップを開催した。

栃木県内の指導者養成ワークショップ開催は、当院以外ではほとんどなく、貴重なコースとして他院からの受講者も受け入れて行っている。その内容は、ICLSの基本的知識の正確な説明・指導だけでなく、成人教育法に則った学習法・指導法を学ぶことにより、次世代を担う質のよいインストラクターの育成を目標とし、受講者からは「成人教育のむずかしさを再認識した」「実際の業務の中で役立てることができそう」など、さまざまな意見をいただいた。

当院の救急・災害部門における取り組みは、グループのみならず、栃木県内でも有数とされている。今後も、年2回のICLS本コースと年1回のICLS指導者養成ワークショップを継続開催し、より多くの医療従事者がICLSの技術を習得することで、地域医療の一助としたい。

(総務・人事課 後藤文栄)



●受講生に向けてのインストラクションの一幕

山王病院

「新型コロナワクチン3回目接種」 港区集団接種会場を運営

順和会の山王病院、赤坂山王メディカルセンター、山王メディカルセンターの3施設では、1月26日～4月16日(日・祝除く)の期間、国際医療福祉大学東京赤坂キャンパスW棟10階にて、新型コロナワクチン3回目港区集団接種会場を運営してきた。本会場は港区の要請を受ける形で、順和会と国際医療福祉大学の職員が協同で約3ヶ月間、受診者への接種および受付・誘導、各種相談などの対応を行った。

会場では感染症対策はもちろん、来場者一人おひとりへの丁寧な対応で、お年寄りを含むすべての方に安心して接種を受けていただいている。また、港区という場所柄、日本在住の外国人も多く訪れるが、英語での対応も万全だ。

当グループでは、1・2回目接種でも同様に港区に協力しており、医療機関として集団接種会場運営に協力することで、接種促進および地域医療に貢献している。(総務課 山本悦子)



●接種会場の様子

医学部3年生が成田病院国際ホールで臨床実習前実習

緊張感あふれる相互採血実習

臨床実習を間近に控えた医学部3年生が2月から3月にかけ、国際医療福祉大学成田病院の国際ホールを会場とした臨床実習前実習に臨んだ。注射（静脈注射、皮下注射、筋肉注射、皮内注射）、採血をはじめ多岐にわたる内容を、指導教員のもと繰り返し復習し、技術習得に励んだ。

学生がペアで行う相互採血実習では、穿刺の難しさを体験。同級生のシリンジの扱いを真剣に見守る学生の姿が印象的であった。学生からは、「実際の人への初めての穿刺」とても緊張したが、これまでのシミュレータでの練習の積み重ねが大変役立ったと感じている」との声が聞かれた。血管の探し方、穿刺の角度や方向、シリンジの引き方のコツを実習を通じて学んだ、大変貴重なレクチャーであった。



●指導教員の手本を真剣な表情で見つめる学生たち

感染から身を守るPPEについての講義

後半の松本哲哉主任教授によるPPE（個人防護具）講義では、病院内で起こるさまざまなシチュエーションに応じたPPEの選択と適切な着脱について、実習を交えた説明が行われた。松本主任教授は学生への質問を交えながらスライドでテンポよく解説。「マスクを外した際、そのマスクをポケットにしまえばポケット内が汚染されているかもしれない」と松本主任教授。あらゆることに考えを巡らせ、まず医療に携わる者が感染しないようにすることが大切であり、感染から身を守る防護具の正しい扱い方や手順がいかに重要であるか習得できた講義であった。



●PPEの扱い方を解説する
松本哲哉主任教授

第122回理学療法科学学会学術大会を開催

地域における介護予防への対策と実践がテーマ

第122回理学療法科学学会学術大会が1月9日、小田原キャンパスにて、ハイフレックスで開催された。

理学療法科学学会会長で、福岡国際医療福祉大学特別教員の丸山仁司先生の挨拶でスタートした今大会は、小田原キャンパス理学療法学科の今井祐子助教が大会長を務めた。「地域における介護予防への対策と実践」をテーマに、2人の先生方による特別講演、一般演題が行われた。

特別講演では、介護予防に関する最新の知見と今後理学療法士として携わるべき提言があり、示唆に富んだ内容であった。一般演題では、多方面の分野から演題発表が行われ、活発な質疑応答もあり充実した内容であった。

国家試験直前の開催だったが、小田原キャンパス理学療法学科の4年生も参加し、熱心に聴講している姿が見受けられた。



●小田原保健医療学部の教室での対面と、Zoomによるオンラインのハイフレックス開催となった

2021年度国家試験結果

2021年度の国家試験結果が発表され、本学では「視能訓練士」で8年連続合格率100%、「介護福祉士」で5年連続100%、「保健師」は小田原保健医療学部で8年連続100%を達成。そのほか、全学部全学科で全国合格率を大きく上回る結果となった。

資格	キャンパス	合格率
看護師	全国	91.3%
	大田原	99.0%
	成田	99.1%
	小田原	100%
保健師	全国	89.3%
	大田原	94.2%
	成田	100%
	小田原	100%
理学療法士	全国	79.6%
	大田原	96.8% 合格者数：全国2位(91人)
	成田	97.5% 合格者数：全国6位(78人)
	小田原	100%
	大川	95.8% 合格者数：全国10位(68人)
作業療法士	全国	80.5%
	大田原	95.1% 合格者数：全国3位(58人)
	成田	95.1% 合格者数：全国9位(39人)
	小田原	100%
言語聴覚士	全国	75.0%
	大田原	98.6% 合格者数：全国1位(68人)
	成田	100% 合格者数：全国5位(37人)
	大川	100% 合格者数：全国7位(35人)
視能訓練士	全国	91.8%
	大田原	100% 合格者数：全国3位(42人)
診療放射線技師	全国	84.7%
	大田原	99.0% 合格者数：全国2位(100人)
臨床検査技師	全国	75.4%
	成田	87.2% 合格者数：全国9位(68人)
	大川	79.4%
社会福祉士	全国	31.1%
	大田原	69.3% 合格者数：全国10位(52人)
精神保健福祉士	全国	65.6%
	大田原	76.0% 合格者数：全国4位(19人)
介護福祉士	全国	65.3%
	大田原	100%
臨床工学技士	全国	80.5%
	成田	100%
薬剤師	全国	68.0%
	大田原	97.8% 合格率：全国1位(※)

※受験者数100人以上の大学

本学グループの新型コロナウイルス感染症に向けた取り組み

国際医療福祉大学は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、本年度も引き続き対策を行っている。すでに2月下旬より、本学学生・教職員および他大学や企業といった職域を対象に新型コロナワクチンの3回目接種を順次開始。本学のキャンパスおよび附属病院合わせて全国6つの会場で、ワクチン接種を行っている。

コロナワクチン、3回目の職域接種始まる

本学は、附属病院や関連グループの医療福祉施設の全面協力を受けて、学生をはじめ、教職員やその家族、周辺住民、約2万3000人を対象にワクチン接種を行っている。



●成田キャンパスでの3回目の職域接種

種を受けた。接種を終えた教員からは、「これで安心して、新学期を迎えることができます」といった声が聞かれた。

新入生2,200人を対象にPCR検査を入学式前に実施

本学は、全国5キャンパスで4月に実施した入学式を前に、新入生およそ2,200人を対象にPCR検査を実施した。式典に出席する新入生全員の健康状態を確認し、陽性反応が出た学生には参加を見合わせてもらうなど適切な対応を取ることで、安心・安全な環境下での行事開催を徹底した。本学は2021年春にも、一部のキャンパス入学式で、新入生への事前PCR検査を行った。医療福祉の総合大学としての社会的責任に鑑み、2022年春は対象を全キャンパスの新入生に拡大。感染症対策の強化によって、対面授業や臨床実習を安全に行えるよう、努力を続けている。

International University of Health and Welfare IUHW CONTENTS vol.129 May 2022

2~3 特集 鈴木康裕 新学長ごあいさつ

4~5 令和4年度 入学式

高木邦格理事長式辞／大田原キャンパス／成田キャンパス／小田原キャンパス／東京赤坂キャンパス

6~7 新任のごあいさつ

三浦裕也 薬学部 学部長／井上智子 成田看護学部 学部長／小森哲夫 小田原保健医療学部 学部長／陣内大輔 保健医療学部作業療法学科 学科長／谷口敬道 成田保健医療学部作業療法学科 学科長／橋本和明 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科 学科長／鈴木裕 国際医療福祉大学病院 病院長／山内豊明 柳川リハビリテーション病院 病院長／須田康文 塩谷看護専門学校 校長／森嶋京子 金丸こども園 園長／柳川敬 新宿けやき園 施設長／篠原さかえ 赤坂山王保育園 園長

8 大友邦前学長 退任特別講義・退任記念講話／令和4年度新入生概要

9~14 令和3年度 学位記授与式

東京赤坂キャンパス／大田原キャンパス／成田キャンパス／小田原キャンパス／大川キャンパス／卒業生総代／学長賞／大学院長賞／塩谷看護専門学校卒業式／2021年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

15 キャンパスレポート

大田原キャンパス＝医療福祉・マネジメント学科で認定合同授与式／東京赤坂キャンパス＝京都大学IPS細胞研究所の山中伸弥教授らが講演／小田原キャンパス＝衛生委員会・防災委員会主催の研修会を開催／大川キャンパス＝外須美夫副学長、地元小学生に講話

16~17 施設インフォメーション

国際医療福祉大学病院／成田病院／三田病院／熱海病院／市川病院／塩谷病院／山王病院

18~19 トピックス

医学部3年生が成田病院国際ホールで臨床実習前実習／第122回理学療法科学学会学術大会を開催／2021年度国家試験結果／本学グループの新型コロナウイルス感染症に向けた取り組み／目次

20 5~6月の市民公開講座／2022年度 キャンパスイベントのご案内

市民公開講座のご案内

国際医療福祉大学の附属病院で開催予定の市民公開講座をご紹介します。

開催日	施設	講演テーマ・講師
5月28日(土) 14:00~15:30	栃木県 国際医療福祉大学病院 (B棟5階 講堂)	「知って安心、おしっこの悩みと前立腺の病気」 講師： 高山 達也 腎泌尿器外科部長、国際医療福祉大学 病院教授 男性の排尿トラブルは主に頻尿や排尿困難で、最も多い原因是前立腺肥大症です。一方、女性の排尿トラブルは頻尿や尿漏れが多く、原因には過活動膀胱や骨盤底筋のゆるみがあります。これらの疾病とその治療方法について、最新のロボット技術の実際も含め解説します。 内田克紀 腎泌尿器外科上席部長、 稻井広夢 腎泌尿器外科副部長も登壇します。 
6月18日(土) 13:30~15:00	千葉県 国際医療福祉大学成田病院 (健診棟4階 成田国際ホール)	「今だからこそ考えよう～安全な妊娠と出産～」 講師： 三木 明徳 産科・婦人科部長、国際医療福祉大学 医学部 産婦人科学主任教授 「妊娠を経験した小児科医が語る理想と現実」 講師： 植田 由依 小児科医、国際医療福祉大学 医学部助教   ※日程・テーマは変更となる可能性がありますのでホームページかお電話などでご確認ください。

市民公開講座は、新型コロナウイルス対策を徹底して開催していますが、今後の状況次第で中止、延期する場合がございます。
各施設のホームページにて最新の情報をご確認ください。

2022年度 キャンパスイベントのご案内

2022年度5月から7月に各キャンパスで開催する予定のイベント日程をお知らせします。

新型コロナ感染対策を徹底した対面型、自宅から参加可能なオンライン型はいずれも事前予約制のうえ開催いたします。

各イベントでは2023年度受験に向け、高校3年生・高校2年生ならびに保護者の皆さまのご参加を歓迎いたします。

学科の特長や資格取得のプロセス、キャンパスライフ、入試制度など、本学の学びをライブで体験していただける絶好の機会です。
来場者プレゼントなど参加特典もあります。



●総合ガイダンス

詳細はホームページでご確認のうえ、ぜひ、ご参加ください。



<https://www.iuhw.ac.jp/oc/>



●個別相談コーナー



●施設見学

大田原キャンパス	成田キャンパス		東京赤坂キャンパス	小田原キャンパス	大川キャンパス
	医学部以外	医学部			
6/5(日) オープンキャンパス	6/4(土) キャンパス見学ツアー ※医学部除く	5/21(土) 医学部説明会 ※会場：東京赤坂キャンパス	6/12(日) オープンキャンパス	6/4(土) オープンキャンパス	6/25(土) 看護学科説明会
7/10(日) オープンキャンパス		6/4(土) オープンキャンパス	7/17(日) オープンキャンパス	6/25(土) オンライン オープンキャンパス	7/17(日) オープンキャンパス 福岡保健医療学部
7/31(日) オープンキャンパス	6/25(土) 医学部説明会 ※会場：東京赤坂キャンパス	7/2(土) 留学生対象 オープンキャンパス			7/23(土) オープンキャンパス 福岡薬学部
	7/9(土) 医学部説明会 ※会場：福岡キャンパス (大学院)				7/24(日) オープンキャンパス 福岡保健医療学部

広報誌 IUHW 129 2022年5月19日 発行：学校法人 国際医療福祉大学 ホームページ <https://www.iuhw.ac.jp/>

〔大田原キャンパス〕栃木県大田原市北金丸2600-1 Tel.0287-24-3000
〔成田キャンパス〕千葉県成田市公津の社4-3 Tel.0476-20-7701
〔東京赤坂キャンパス〕東京都港区赤坂4-1-26 Tel.03-5574-3900

〔小田原キャンパス〕神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) Tel.0465-21-6500
〔大川キャンパス〕福岡県大川市榎津137-1 Tel.0944-89-2000
編集：広報部 デザイン：(株)日経ピーアール